

令和2年度 学会・学術に関する委員会 事業報告

1. 活動テーマ

日本公衆衛生看護学会学術集会での全国保健師長会の企画提案（ワークショップの実施）及び学術集会の企画委員及び実行委員として参画

2. 目的

地域保健で働く保健師が調査研究やまとめを報告する場所を確保し、公衆衛生看護の専門職として自己研鑽や資質向上を図る

3. 実施状況

回	時 期	場 所	内 容
1	令和2年6月22日(月)	メール会議	【第1回委員会】 ・委員会活動の具体化及びタイムスケジュールの検討 ・第9回日本公衆衛生看護学会学術集会での全国保健師長会ワークショップの検討
2	令和2年7月11日(土)	立川市子ども未来センター	【第2回委員会 幹事※のみ】 ・ワークショップの内容、講師、展開等検討
3	令和2年9月22日(土)	立川市会議室	【第3回委員会 幹事※のみ】 ・タイムスケジュール、講師への依頼事項等検討
4	令和2年10月10日(土)	WEB会議	【第4回委員会】 ・ワークショップ内容、ちらし、役割分担等検討 【第1回ワークショップ打合せ】 ・話題提供者、講師と打合せ
5	令和2年12月5日(土)	WEB会議	【第5回委員会】 ・話題提供者の原稿確認、オンライン集会までの段取り再確認等
6	令和3年1月9日(土)	メール会議	・第9回日本公衆衛生看護学会学術集会、ワークショップの配信開始 ・掲示板による事前質問受付
7	令和3年1月23日(土)	WEB会議	【第6回委員会】 ・事前質問の意見集約状況、当日進行と役割分担の最終打合せ 【第2回ワークショップ打合せ】 ・話題提供者、講師との最終打合せ
8	令和3年1月24日(日)	立川市会議室(オンライン集会)	【第7回委員会】 ・オンラインによるワークショップの運営、まとめ

※ 幹事(山科、中村、荒井)で検討した。

その他:委員4名(サポーター含む)は、第9回日本公衆衛生看護学会学術集会企画委員会のメール会議へ随時参加している。

また、委員内では随時メールで情報共有と検討を実施した。

4. 結果・課題

第9回日本公衆衛生看護学会学術集会において、初めてオンラインでのワークショップへ参加し、「地域に責任を持つ保健師活動の伝承」～管理期の保健師による「みる・つなぐ・うごかす・つたえる」を実践活動から考える～をテーマに開催した。

ワークショップ前の視聴講義では、2自治体の実践活動から報告を受けた。統括保健師の役割は組織横断的に調整するために多岐におけるつなぎをしていくこと、仲間の協力を得ること、組織としての役割を意識して動くこと等の重要性を学んだ。また、講師からは、危機管理業務での判断や行動が問われ、そのなかで活動する統括保健師の役割は重要であること、統括的業務はある特定の人に固定的に与えるものではなく、機能（役割）として組織に根付かせること、人材育成にあたっては、知識・スキルだけでなく、専門性の理解を職場の中や仲間同士で伝えあう、共有することが必要であり、その姿を意識して後輩に見せていくことが特に大切であることの報告を受けた。

オンラインでのワークショップ参加者は68名であった。当日は、事前の視聴講義から、管理期の役割や課題、人材育成について、意見交換や情報交換を行い、以下の学びを得た。

- ・保健師の役割、専門性について皆で共有していくことが大事。大変な状況下で保健師はいつも工夫しながら乗り越えてきていることについて、フィードバック・情報交換していくことが必要

- ・保健師という職種や特性を他職種、事務職にも伝え、わかってもらい、与えられている役割について考えながらつながりを意識して活動を位置付けていくことが重要。会議、訓練、事例検討等、そういった機会を作ることも管理期保健師の役割である。

- ・コロナ対応が長期化している中で、専門職として自分を奮い立たせるという、モチベーションの維持は重要な要素。モチベーションが一番下がるのは「孤立」である。仲間とともに、頑張っていることを感じられ、また上司からのちょっとした声かけがあればモチベーションが維持できる。若い人材も一緒に貴重な経験していくことが重要であり、あらゆる機会を捉え、働きかけができる統括保健師としての役割が期待される。

アンケート結果からは回答が25人（回収率42%）と少なかったが、参加者全員から参加して良かったとあり、統括保健師の役割や体制づくり・チームワークの重要性について共通認識することができた。この時期に様々な実践活動を聞くことは、今までの振り返りと明日からの活動を見直すきっかけになったと考える。

今回、健康危機だからこそ求められる保健師の専門性と統括保健師の役割やモチベーション維持のあり方のメッセージは、日々コロナ対応で疲弊している保健師の胸を打ち、明日からの活力になったと言える。また、初めてのオンライン集会で意見交換ができるのか不安ではあったが、参加者からの声やアンケート結果からも手ごたえを感じた。

5. 支部活動の特徴

例年は委員が全員集まり、年3~4回の委員会活動を実施していた。今年度はコロナ禍での活動となったため、オンライン（ZOOM）での委員会開催が主となったが、移動時間もなく短時間で打合せができて有用だった。

6. 委員氏名

○山科美絵	東京都福祉保健局保健政策部保健政策課保健指導調整担当
中村美奈子	東京都福祉保健局西多摩保健所保健対策課地域保健推進第二担当
木内恵美	文京区保健衛生部健康推進課
石堂双葉	大阪府健康医療部健康医療総務課保健所・事業推進グループ主査
齊藤和美	大阪市福祉局高齢者施策部高齢福祉課
*サポーター	
荒井和代	東京都福祉保健局多摩立川保健所保健対策課地域保健第一担当